

季節的变化があり、デザイン的にも概ね成功したと思う。

モザイクカルチャーへの用土の詰め込みから植物の植え付けにはある程度の技術と相当の労働量が必要なのことが分かった。都市緑化ふくおかフェアでの視察調査ではカモ1体につき造園工10人役かかる回答があり、それに比べるとボランティア中心の本園ではおよそ2倍かかっており、今後作業の効率化を図らなくてはならない。ただ、小さな多数の植物を立体面に丁寧に植えていく必要があるため、粗雑になると非常に活着が悪くなり、植え替えて、二度手間になるなど、作業の確実性を高めることが必要である。

花壇は、春のパンジーの生育は良好であった。夏から秋のブルーサルビアは、植栽期間が長いためサ

ルビアの草丈がかなり伸び、倒伏して見苦しくなった。夏に一度切り戻すか、秋はソバやわい性のコスモスなど短期間で開花しする植物に切り替えて展示することが必要であろう。

### 謝辞

忙しい中、展示作成及び維持管理作業に協力していただいた広島県ハンギングバスケットマスターの会及び植物友の会管理ボランティア会員、またモザイクカルチャー展示視察調査に対応していただいた静岡国際園芸博覧会事務局の雲母典夫氏、同杉本裕子氏、(株)ハケ代造園の衛藤徹雄氏、全国都市緑化ふくおかフェア実行委員会事務局の作本裕氏、同北島滋敏氏、(株)素鶴園の井上政喜氏に感謝します。

## 巨大ヒマワリの栽培について

島田有紀子、尾崎健司

### 種子の入手

平成17年夏、入園者(小谷欣三氏)から、兵庫県で行われている「ジャンボひまわりコンテスト」について紹介があった。このコンテストは阪神・淡路大震災の被災地復興への夢づくりを目的に、特定非営利活動法人「ひまわりの夢企画」の主催で平成10年から始められたもので、平成18年で9回目を数える。当園でも大きなヒマワリを育て、たくさんの方に驚きと夢を感じていただけるよう、コンテスト入賞株(高さ5.25m)から採取した種子60粒の提供を受けた(写真1)。



写真1. 分譲種子

### 栽培管理・生育過程

本系統のヒマワリは草丈4m以上に伸長することから、栽培場所は支柱の立てやすいベゴニア温室周辺とした。2月下旬～3月下旬にベゴニア温室の南側(3×1m)の一部と東側(15×1m)で芝生を剥ぎ取り、植え床を50cm程度の深さまで耕し、牛糞100kg、鶏糞80kg、油粕70kg、バーク堆肥200kg、化成肥料10kg、苦土石灰15kgを十分にすき込んだ。5月2日に1m間隔で一箇所に2粒ずつ播種し、2週間後(写真2)、勢いの良い1本を残し、計18本とした。灌水は乾いたら適宜行い、5月下旬に緩効性化成肥料(10-10-10)を置き、5月中旬から7月中旬まで1週間毎に液肥(7-4-7)を葉面散布した。その結果、6月下旬には最長株で草丈約2m50cm(写真3)、7月上旬に3m50cm、7月中旬には4m50cmと順調に生育した。7月22日に5m20cmで発蕾が確認され、7月下旬(写真



写真2. 発芽(5月18日)



写真3. 草丈 2m50cm(6月27日)



写真4. 草丈 5m80cm(7月31日)



写真5. 草丈 6m41cm(8月10日)



写真6. 多花タイプ(左)と大輪タイプ(右)

4)には5m80cm、8月10日に6m41cm(写真5)を記録した。入園者に草丈がわかりやすいように、この株の横に大きなメジャーを作成し設置した。なお、花形は、花径30cmを越える大輪のタイプから直径20cm程度の花が多数つくタイプなど、色々な形質が現れた(写真6)。

#### コンテストへの応募

特定非営利活動法人ひまわりの夢企画が主催する第9回ジャンボひまわりコンテストに最長株の写真を応募したところ、第2位に入賞した。なお、参考までに、第1位は宮崎県都城市で6m80cm、世界記録は1986年にオランダで記録され、ギネスブック認定された7m76cmである。

#### 入園者の巨大ヒマワリへの反応

ヒマワリといえば本来背が高いイメージがあるが、近年は鉢植え、プランター、花壇などで楽しめる小型品種の人気の高い。今回展示した巨大ヒマワリの植栽期間は夏休みと重なり、多くの子どもたちの目に触れる機会を提供できた。驚きの声を上げ、前で写真を撮ったり、スケッチブックに描き止める子どもの姿が見られた。こうした身近で馴染みの深い植物で感動を与えることができたことは、非常に意義深いことであった。今後もこのようなインパクトのある植栽展示を考えていければと思う。